

問題・解答
用紙番号

27

の解答用紙に解答しなさい。

世 界 史

〈受験学部・学科〉

法学部、国際学部、経済学部、経営学部、現代社会学部、
農学部【文系科目型】(食農ビジネス学科)

問題は100点満点で作成しています。

I

独立に関する次の文章(A)～(C)を読み、あとの設問に答えよ。(40点)

- (A) ^(a)スペイン王フェリペ2世の支配下のネーデルラントでは、毛織物業や商業が盛んなこともあり、カルヴァン派の新教徒が多かった。しかし、フェリペ2世はネーデルラントにおいてもスペインと同じようなやり方でカトリックを強制し、それまで認められてきた自治権を奪おうとしたことから、激しい反乱をまねいた。その後、カトリック勢力が強い南部10州はスペインの支配下にとどまることになったが、 (1) 同盟を結んだ北部7州は、^(b)ネーデルラント連邦共和国(オランダ)の独立を宣言した。また、イングランドで国教会を復活させたイングランド女王 (2) がオランダを支援するなどしたことから、スペインはイングランドに無敵艦隊をおくったが、敗北した。その後、オランダはスペインと休戦条約を結んで事実上独立し、^(c)三十年戦争の講和条約である (3) 条約によってスイスとともに正式に独立を認められた。
- (B) 七年戦争終結後、イギリスの植民地アメリカでは、戦争による赤字財政の軽減などの理由から、イギリス本国により課税が強化された。そのため、植民地の人々の不満が高まり、 (4) 茶会事件がおこると、本国政府は (4) 港を閉鎖するなど強硬な態度をとった。植民地側は大陸会議を開いて本国に自治の尊重を要求したが、レキシントンとコンコードで武力衝突がおこり、独立戦争が始まった。植民地側は^(d)ワシントン^(d)を総司令官に任命してたたかい、13植民地の代表はフィラデルフィアで独立宣言を発表した。最終的にヨークタウンの戦いに敗れたイギリスは、 (5) 条約でアメリカ合衆国の独立を承認し、 (6) 川以東の

広大な領地をゆずった。

- (C) オスマン帝国下の ボスニア・ヘルツェゴヴィナやブルガリアで蜂起がおけると、ロシアは
(e) パン= (7) 主義を利用し、オスマン帝国に開戦して勝利した。その講和条約として
(8) 条約を結び、ルーマニアやセルビアなどを独立させ、ブルガリアをロシアの保護下
におくことを認めさせ、勢力拡大に成功した。しかし、オーストリアやイギリスがこれに反対
したため、ドイツの ビスマルクはベルリン会議を開き、列国の利害を調停した。その結果、
(g) (8) 条約は破棄され、新たにベルリン条約が結ばれ、ロシアの拡大がおさえられた。

問1. 空欄 (1) ～ (8) にもっとも適切な語を記入せよ。

問2. 下線部(a)～(g)について、以下の問いに答えよ。

- (a) フェリペ2世に関する説明として、正しいものを一つ選べ。
- ㊦ 神聖ローマ皇帝となり、フランス王フランソワ1世とたたかった。
 - ㊧ ポルトガルの王位を兼ね、海外植民地を広げた。
 - ㊨ オーストリア継承戦争をおこして、勝利した。
 - ㊩ プロイセンとともにポーランド分割に参加した。
- (b) ネーデルラント連邦共和国（オランダ）の歴史に関する説明として、正しいものを一つ選べ。
- ㊦ アンボイナ事件を機に、イギリスの勢力をモルッカ諸島からしめだした。
 - ㊧ ウィーン会議で、ケープ植民地の領有を認められた。
 - ㊨ 1651年にフランスで制定された航海法めぐり、フランスと戦争をおこした。
 - ㊩ アントウェルペンがアムステルダムにかわって国際商業の中心として繁栄した。
- (c) 三十年戦争に参加したスウェーデン王は誰か。正しいものを一つ選べ。
- ㊦ ヴァレンシュタイン
 - ㊧ リューリク
 - ㊨ グスタフ＝アドルフ
 - ㊩ イヴァン3世
- (d) ワシントンは初代アメリカ合衆国大統領となるが、アメリカ合衆国大統領に関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。
- ㊦ ジェファソンは、フランス領ルイジアナの買収に成功した。
 - ㊧ モンローは、アメリカ大陸とヨーロッパの相互不干渉を表明した。
 - ㊨ マッキンリーは、イギリスとの戦争をおこしてプエルトリコを獲得した。
 - ㊩ ハーディングは、ワシントン会議の開催を呼びかけた。

(e) オスマン帝国に関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ㊦ メフメト 2 世の時代にビザンツ帝国を滅ぼした。
- ㊦ スレイマン 1 世の時代にウィーンを包囲してヨーロッパに脅威を与えた。
- ㊦ カルロヴィッツ条約によってハンガリーの大部分を手に入れた。
- ㊦ フランス商人に領内での居住と通商の自由をおおやけに認めた。

(f) ボスニア・ヘルツェゴヴィナでは、のちにボスニア州都サラエヴォで第一次世界大戦に発展する事件がおこった。サラエヴォの位置はどこか。地図上の記号㊦～㊦から正しいものを一つ選べ。



(g) ビスマルクに関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ㊦ 「文化闘争」を開始してカトリック教徒を抑圧した。
- ㊦ 社会主義者鎮圧法を制定する一方、社会保険制度を実施した。
- ㊦ イタリアやロシアなどと同盟や条約を結び、フランスの孤立化をはかった。
- ㊦ ヴェルサイユ宮殿でドイツ皇帝に即位した。

問3. 文章(A)～(C)にイギリスの名誉革命とフランス革命を加えて、年代順に古いものからならべたものとして、正しいものを一つ選べ。

- ㊦ (A)→名誉革命→フランス革命→(B)→(C)
- ㊧ (A)→名誉革命→(B)→フランス革命→(C)
- ㊨ 名誉革命→(A)→フランス革命→(B)→(C)
- ㊩ 名誉革命→(A)→(B)→フランス革命→(C)

Ⅱ 次の文を読み、あとの設問に答えよ。(30点)

遼河上流で半農半牧の生活を営んでいた契丹(キタイ)は、ウイグルの衰退とともに勢力を強めていた。10世紀はじめ、この契丹を (1) (太祖) が統一した。契丹は東の渤海を滅ぼし、西はモンゴル高原をおさえ、その後、五代の後晋の建国をたすけて、現在の河北・山西省の北部にあたる (2) を獲得した。960年に 宋(北宋)が建国 ^(a)されたあとも、契丹は華北に侵入をくりかえし、11世紀はじめには、宋が毎年多額の銀や絹を契丹におくことなどを条件に和議を結んだ。これは (3) の盟と呼ばれる。契丹は時期によって国号を中国風に遼とも称し、支配下の遊牧・狩猟民には部族制を、農耕民には州県制を採用する二重統治体制をとった。

ツングース系の女真は長く遼の支配下にあったが、1115年、 (4) (太祖) が皇帝の位につき、金をたてた。1125年、金は (2) の奪還をめざす宋と結んで遼を滅ぼした。このとき、遼の王族の耶律大石は中央アジアに逃れて (5) を建国した。金はさらに南下して 宋の都 ^(b) を陥落させ、宋は江南に逃れた欽宗の弟の (6) ^(c) によって再興された(南宋)。金は 部族組織を基礎にした軍事・行政制度を維持する一方で、華北では宋の州県制を継承した。

遼が滅亡して以来、モンゴル高原ではさまざまな勢力が割拠していたが、やがて高原東北部のモンゴル部族のなかでテムジンが勢力をのぼし、1206年、クリルタイで君主に推戴されて (7) と称した。彼は、モンゴル系・トルコ系の諸部族をまとめて大モンゴル国を形成し、さらに草原・オアシス地帯に支配を広げた。あとを継いだオゴタイは、金を滅ぼして華北を領有するとともに、モンゴル高原の (8) ^(d) に都を建設した。第5代の フビライ ^(d) は、東方に支配の重点を移し、 大都 ^(e) に都をおき、1271年に国名を中国風に (9) と称した。そして1279年には南宋を滅ぼし、中国全体に支配を広げた。 (9) は中国の伝統的な官僚制度を採用したが、実質的な政策決定はモンゴル人によっておこなわれ、その下で中央アジア・西アジア出身の色目人が重用された。そのほか、金の支配下にあった人々は漢人、南宋の支配下にあった人々は (10) と呼ばれた。

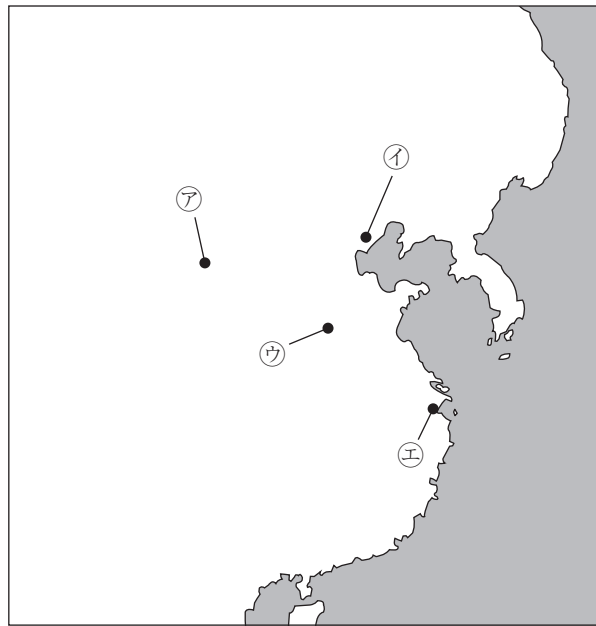
問1. 空欄 (1) ～ (10) にもっとも適切な語を記入せよ。

問2. 下線部(a)～(e)について、以下の問いに答えよ。

(a) 宋(北宋)を建国したのは誰か。正しいものを一つ選べ。

- ㊦ 安祿山 ㊩ 朱元璋 ㊵ 趙匡胤 ㊴ 李淵

(b) このとき陥落した宋の都はどこか。地図中の記号㉖～㉙から正しいものを一つ選べ。



(c) 金のこの制度を何と呼ぶか。正しいものを一つ選べ。

- ㉖ 衛所制 ㉘ 千戸制 ㉗ 八旗 ㉙ 猛安・謀克

(d) フビライに関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ㉖ 鴨緑江を越えて高麗を圧迫し，完全な属国とした。
㉘ 兄モンケの急死後，弟アリクブケと大ハン位を争って，勝利した。
㉗ 日本・大越（陳朝）・チャンパー・ビルマ・ジャワに遠征軍をおくった。
㉙ 東欧に侵入し，ワールシュタットの戦いでドイツ・ポーランド連合軍を破った。

(e) 大都に来訪したマルコ=ポーロの見聞をまとめたと言われるものは何か。正しいものを一つ選べ。

- ㉖ 『西遊記] ㉘ 『集史]
㉗ 『世界の記述』（『東方見聞録』） ㉙ 『旅行記』（『三大陸周遊記』）

アジア地域に関する次の文章(1)～(15)には、下線部が正しいものと正しくないものがある。正しいものについては⑦を、正しくないものについては①～⑥からもっとも適切なものを選び。(30点)

- (1) 共通の言語から派生した同系統の言語グループを語族と呼ぶが、アジア地域に広がるトルコ語・カザフ語・ウズベク語・ウイグル語・モンゴル語・満洲語などの言語グループはアフロ＝アジア語族と称される。
- ① アルタイ ㊦ ウラル
② オーストロアジア ㊧ オーストロネシア
- (2) 前1500年頃、インド＝ヨーロッパ語系の牧畜民であるチャム人が、中央アジアからカイバル峠を越え、インダス川中流域のパンジャーブ地方に侵入し始めた。彼らの社会は、まだ人々のあいだに富や地位の差がうまれていない部族的な社会であった。彼らは火・雷・水などの自然現象を神として崇拜した。これらの神々への讃歌を集め、『リグ＝ヴェーダ』が編纂された。
- ① アッカド ㊦ アーリア ③ ソグド ㊧ フン
- (3) 前4世紀後半、パターリプトラ（現在のパटना）を都としたヴァルダナ朝がおこり、北インド全域を統治する大帝国となり、第3代アショーカ王のときに帝国の領域は最大となった。アショーカ王は仏教の強い影響を受け、その広大な帝国を統治する理念として不殺生・従順・慈悲などのダルマ（法・倫理）をかかげた。
- ① グプタ ㊦ チョーラ ③ マウリヤ ㊧ マタラム
- (4) 1世紀末、東南アジア最古の国家ともされる真臘がメコン川下流域に建国された。この国の外港オケオの遺跡からは、ローマ貨幣やインドの神像・仏像、漢代の中国鏡などが出土しており、さまざまな物資の中継地として栄えていたことがうかがえる。
- ① 柔然 ㊦ 突厥 ③ 南詔 ㊧ 扶南
- (5) 7世紀頃、スマトラ島南部のパレンバンを中心にマラーター王国が成立した。この国は海上交易に積極的にたずさわって繁栄した。また、インドから大乘仏教を導入し、同教の教学の中心地としても知られた。『南海寄帰内法伝』を書いた義浄は、インドからの帰りにパレンバンに滞在し、仏教が盛んな様子を記した。
- ① シュリーヴィジャヤ ㊦ ソンガイ
② マジャパヒト ㊧ モノモタパ

- (6) 古代北インド最後の統一王朝と称されるヴァルダナ朝は、7世紀前半にカニシカ王によって建てられたが、彼の死後、王朝は崩壊し、北インドはヒンドゥー諸侯の分立する状況が長く続いた。この時代の北インドでは、諸王たちがクシャトリヤ身分のラージプート（王の子）と称したので、ラージプート時代とも呼ばれる。

① カーリーダーサ

⑦ ソロモン

⑤ チャンドラグプタ

① ハルシヤ

- (7) イラワディ（エーヤーワディー）川流域にはチベット＝ビルマ系民族のピュー人が居住していたが、9世紀頃からビルマ（ミャンマー）人が定住するようになった。11世紀になるとビルマ初の統一王朝アンコール朝がおこり、雲南とベンガル湾を結ぶ交易で繁栄した。またスリランカとの交流で上座部仏教化がすすみ、東南アジア大陸部各地へ上座部仏教が広まった。

① アッバース

⑤ シャイレンドラ

① スコータイ

④ パガン

- (8) 9世紀後半、中央アジア最初のイラン系イスラーム国家として、サーマーン朝が西トルキスタンに建国された。この政権のもとでトルコ人のイスラームへの改宗がすすんだ。トルコ人のイスラーム化は、10世紀末に中央アジアで最初のトルコ系イスラーム王朝であるカラ=ハン朝がサーマーン朝を滅ぼし、東・西トルキスタンをあわせたことによってさらに進展した。

① アイユーブ

⑦ セルジューク

① ホラズム＝シャー

⑦ マムルーク

- (9) 明を中心とする朝貢貿易は、東アジアからインド洋にいたる広い範囲で活発におこなわれた。朝鮮は明の重要な朝貢国の一つであり、科挙の整備や朱子学の導入など、明の制度を取り入れた改革をおこなった。15世紀前半の世宗のときには、金属活字による出版や訓民正音（ハングル）の制定など、特色ある文化事業が盛んにおこなわれた。

① ウイグル文字

⑤ 神聖文字（ヒエログリフ）

① 字喃 (チュノム)

④ 民用文字（デモティック）

- (10) 16世紀に入るとヨーロッパの諸勢力が東南アジア地域に進出し始めた。マラッカは1511年にポルトガルに占領された。ポルトガルに続いて進出したオランダは16世紀後半からフィリピンへの侵略を開始し、マニラに根拠地をおいて交易と支配をおこなった。

① イギリス

⑤ イタリア

(エ) スペイン

④ フランス

(11) 東南アジアのほとんどの地域がヨーロッパ諸国の植民地となるなか、唯一植民地化を回避したのはタイであった。タイでは18世紀の終わりに、ラーマ1世が現王朝のラタナコーシン（チャクリ）朝を創始し、トンキンを首都とした。1932年には立憲君主制に移行したが、その後ラーマ9世は王権の回復を目指し、国王が国政に少なからぬ影響力を行使してきた。

- ① アユタヤ ② バンコク ③ ペナン ④ ベンガル

(12) オランダ植民地下のインドネシアでは、ブディ=ウトモ（最高の英知）運動やイスラーム同盟（サレカット=イスラム）を中心に民族運動が盛んとなっていた。1927年にはアギナルドを指導者とするインドネシア国民党が組織されたが、オランダ植民地政庁の大弾圧をうけ、1931年に解散した。

- ① ガンディー ② スカルノ ③ ネルー ④ ホセ=リサル

(13) フランス領インドシナでは、ホー=チ=ミンが日本の占領下にベトナム独立同盟会（ベトミン）を組織し、1945年9月にはベトナム民主共和国の独立を宣言した。しかし、再植民地化をはかるフランスはこれを認めず、1949年、阮朝最後の皇帝ゴ=ディン=ジエムを元首とするベトナム国を発足させるとともに、民主共和国と交戦（インドシナ戦争）を続けた。

- ① バオ=ダイ ② ファン=ボー=チャウ
③ モサデグ ④ レザー=ハーン

(14) 1963年11月、アメリカ合衆国大統領のケネディが遊説中に暗殺され、後継には副大統領のアイゼンハワーが第36代大統領に就任した。彼は1960年代半ばからベトナム戦争への軍事介入をすすめる、1965年には北ベトナムへの本格的な攻撃（北爆）を開始し、50万人の大軍をベトナムに派遣した。

- ① カーター ② ジョンソン ③ ニクソン ④ レーガン

(15) 1967年、インドネシア・シンガポール・フィリピン・マレーシア・ラオスによって東南アジア諸国連合（A S E A N）が設立された。はじめは反共同盟的性格をもっていたが、1971年に東南アジア中立地帯宣言をおこない、地域紛争の自主的・平和的解決と政治・経済協力を前面にかかげた。

- ① カンボジア ② タイ ③ 東ティモール ④ ベトナム